

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

和歌山市立有功東小学校
教諭 福井規之

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」であり、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

研究では、所属校研修において、学びの丘で受講した研修力向上トレーニングや組織開発力向上トレーニングで学んだことを即実践するなど、研修と現場での実践をリンクさせた取組を展開することができた。また、研修員の立場から所属校の研究の現状を見ることで、これまで見えていなかった所属校の研究の良さや課題などを客観的に捉えることができ、自分自身の研究へ大いに役立てることができた。

修養では、初任者研修や10年経験者研修を聴講し、これまで受講者として学んだことをふり返り、知識を定着させる機会となった。また、ミドルリーダーとして、初任者をはじめとする若手教員を指導するという立場で、どのような支援やアドバイスができるかを考える貴重な経験となった。

研修員研修では、様々な教科・領域における講義や演習を通して、新たな知識や教材研究の方法を得ることができた。特に、これまで苦手意識を抱いていた国語科の教材分析については、観点をういた教材研究法を提示していただき、研修員で協同して取り組めたことが自分の意識を変えるきっかけとなった。

スクールコンプライアンスの研修では、教育全体が法に基づき行われていることを改めて認識し、これまで以上に高い意識を持って教育活動に取り組む必要性があると痛感した。

今後は学校現場におけるミドルリーダーの立場として、1年間の長期研修員生活で学んだことを若手教員へ知識や経験として伝えていくとともに、「チーム学校」の中核を担い、学校運営や研究課題の解決に向け取り組んでいきたい。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書、資料の作成

所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」

- 修養
- 「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング
 - 専門性の向上を目指す専門研修講座等受講
 - 初任者研修、10年経験者研修聴講
 - 学びの丘指導主事等による研修員研修

図 研修の概要